

平成31年1月29日（火）18：30～20：40
生浜公民館 多目的ホール

テーマ

「認知症の人を支えるための仕組み（町）づくりについて」

徘徊のある認知症の人の見守りや行方不明時の発見の仕組みとして「みまもりあいプロジェクト」を開発した事業所から、プロジェクトの開発の経緯から活用方法まで紹介され、さらにマンションや新興戸建て住宅が建設された後も建設会社と共にコミュニティ作りを行う事業所から事業所での取り組み事例を紹介されました。

その後、浜野圏域で認知症の人を支えるための仕組みを作るための、プロジェクト企画書(案)を各グループで話し合いました。

各グループから提案された企画書は下記のとおりです。

1グループ

「地域で安心して暮らすために」

地域の中で、地域の医療・介護・福祉の専門職が、町内会の役員の方やあんしんケアセンターさんと、全ての地域住民に居場所作りをしていきたい。そのために、まずは、集まることのできる場所を作っていきたい。

2グループ

「認知症を知ろう」

自治会館で、地域の医療・介護・福祉の専門職が、自治体や自治会の協力を得て、地域住民に、定期的（月 1 回位）な勉強会や認知症カフェ、イベント（かくれんぼや劇団で）を開催し、みんなでたくさん集まる機会を設けたい。

3グループ

「拠点づくり」

日中に、お店やカフェ、サロンで、社協や施設職員、学校（PTA）、子供達、若い世代などファミリー層、見守りなどで家から出られない方に、民生委員などの協力を得て、日中集まる場所を作りながら、その場所まで出かけるための移動手段を検討したい。

4グループ

「逃走中 in 大戸池」

秋休み等の時期を利用して、大戸池お散歩コースで、地域の医療・介護・福祉の専門職が、高齢者（自治会や地域住民）、学生たち、行政、警察と、アプリに興味がある若い年代に、アプリを活用したかくれんぼ訓練を行いたい。交番のお巡りさんの協力を得たり、水分補給ポイントを設定し、浜野にある認知症カフェを設定し、認知症カフェにも来てもらうなど、工夫する。

5グループ

「生浜支え合いサロン」

働く家族も参加できる土日に、無料で貸し出してくれる施設等のスペースで、長嶋Drプロジェクトメンバー（わたしたち）が、あんしんケアセンターや民生委員、社協と、認知症介護で悩む家族、シングルマザー、子育てで悩む方などが息抜きできるコミュニティを作りたい。

6グループ

「認知症の人も担い手になれる町づくり！！」

すぐにでも、地域住民で興味のある方誰でも、先生となる農家や収穫物の加工ノウハウのある方、教育機関などの協力施設と、全ての人に、生実町の空いている畑や田んぼ、空き家で、畑を耕したり田んぼで米作りなどを行う。さらに、収穫祭をしたり、加工品の開発、ワークショップを開催し、売上を作って、やりがいを得、活動継続につなげる。全員が担い手となることを目指す。

7グループ

「子どもたちを丸め込もう」

新学期から、素直に話を聞いてくれる子ども（小学生）を対象に、学校の先生とわたしたちが企画し、認知症に関する授業や福祉施設の見学などを学校のカリキュラムに組み込む。また、お金がかかる早大な案だが、学校内に施設を作り、高齢者と小学生が一緒に遊ぶ機会を作り、認知症への理解を深める。

8グループ

「とびだせ認知症！」

定着するまで、年1回開催。小学校や事業所の空きスペースで、地域から飛び出してきた人（学校ボランティア部、施設関係者、自治会）が実行委員となり、認知症の当事者の方の他、子どもや高齢者の方を対象に、昔の遊びを教えたり、豚汁などの炊き出しを一緒に行うイベントを開催し、認知症当事者の方が活躍できる場所を作りたい。

9グループ

「子ども声掛け隊」

春休みの日中など学生が休みのときに、町内で、あんしんケアセンターが、自治会や福祉事業所の協力を得て、小中学生を対象に、徘徊者への声掛け訓練を行い、認知症の徘徊の方が増えているので、子どもたちに徘徊者の方協力してもらいたい。